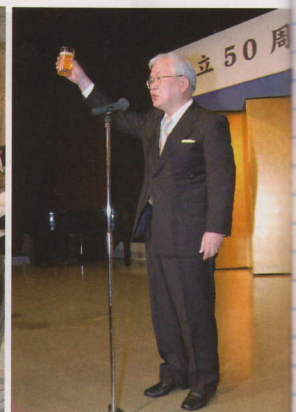


地域が直面している課題を自らの手で解決して、住み良い地域社会の創造をめざして活動している住民集団、企業を顕彰する「あしたのまち・くらしづくり活動賞」などの表彰や全国各地で活躍する生活学校、生活会議、地域づくりに取り組んでいる人たちが、一堂に会し今後の地域づくり活動の方向を探る「創立五十年記念平成十八年度あしたのまち・くらしづくり全国フォーラム」が昨年十二月四、五日の両日、東京都渋谷区「オリンピック記念青少年総合センター」などを会場として、六百五十人の参加を得て開催された。

昨年度までの「ふるさとづくり賞」から衣替えをして新たに始まった「あしたのまち・くらしづくり活動賞」には住民活動分野として、「食育推進活動部門」「子育て支援活動部門」「まち・くらし活動部門」、さらに「企業の地域社会貢献活動部門」の四部門が設けられ、内閣総理大臣賞には、それぞれ、NPO法人霧島食育研究会（鹿児島県）、NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん（岡山県）、NPO法人グラウンドワーク三島（静岡県）、

創立50周年記念式典 祝賀会



むつみ造園土木株式会社（秋田県）が受賞した。同じく内閣官房長官賞には、緑区食生活等改善推進員会（神奈川県）、子どもが育つまち天白天子ネット（愛知県）、NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム（千葉県）、トヨタ自動車株式会社トヨタボランティアセンター（愛知県）が受賞した。また、主催者賞には六団体、振興奨励賞には二十三団体が受賞した（入賞団体名簿は五十二頁～五十四頁掲載）。

フォーラムの一日目は、受賞団体と参加者が地域づくりの『思い』『悩み』『喜び』『課題』などについて話し合う「地域づくりーわたしたちの思いをかなえよう！まちづくり」のほか「食育」「子育て支援」など八分科会がもたれ、それぞれ事例発表、ワークシヨップなどを通じて、今後の活動の方向を探った。翌日の全体会では、シンポジウム「二一世紀の地域づくりー新しい公共の担い手をめざしてー」が行なわれ、地域づくりの原点である「ひとりひとりの思い」ー個人と個人、個人と活動団体、活動団体同士、活動団体と行政、企業ーをいかにつなげていけばい



いかにして話し合った。(概要は五十一頁～五十四頁に掲載)。最後に、二日間の討議を踏まえて、決議・申し合わせ・アピールを作成し、参加者一同で採択した。

平成十八年は、本フォーラムの主催団体である財団法人あしたの日本を創る協会が、昭和三十一年に新生活運動協会として発足してから、五十年を迎えた年でもあり、いくつかの記念事業も展開された。その一つが地域活動に携わっておられる方、社会学、経済学、地方自治、マスコミ関係者など広汎な分野の学識者による委員会を設け、今後の地域活動について検討を加え、「二世紀地域活動ビジョン」―ひとりひとりの『思い』をつなぎ豊かな社会を―地域から日本を変える―としてまとめた。このビジョンはフォーラム当日、参加者に配布された。また、表彰式では、あしたのまち・くらしづくり活動賞の表彰とあわせ、長年の功労のあった方も表彰された。「交流のつどい」では、昭和三十四年に発表された「新生活音頭」も復元披露され、華やかな彩を添えた。